

『世の終わり・2』

'21/08/29

聖書箇所: マルコの福音書 13 章 14-37 節 (新約 p.94-)

皆さんは、私たちが今住んでいる、この地球や太陽に寿命がある…、いつかは爆発して、星としての終わりを迎えるということをご存知だろうと思います。実は先日、ネットで、そういったことを簡単に調べてみると、「この地球の寿命はあと 20 億年とか、あと 50 億年…」というような記事を見つけました。

しかし、神様のお言葉である聖書は、「そういった世の終わりが、実は、もう間もなく、やって来る！」と教えてくれています。…果たして、天の神様は、そういったような世の終わりに関連して、どういったことを教えてくれているのでしょうか？ 私たちは今、何をしていくべきなのでしょう？

命題: イエス様が教えてくださった、患難時代の後半に起こること？

どうぞ、先週から学んでおりますマルコ伝 13 章をお開きください。先週は、イエス様が語ってくださったマルコ 13 章の前半 (1-13 節) から、患難時代の“前半”に起こるであろうことを学んでまいりました。今日は、そのマルコ 13 章のみことばから、あのイエス様が弟子たちに対して教えてくださった「世の終わり」について…、特に今日は、「患難時代の後半に起こること」について学んでいきます。そうすることで、願わくは、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、今後、どのような方向に世の中が進んでいっても、あわてることなく…、聖書のみことばに留まって、私たちの主なる神様の栄光を現わしていけることを願います。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばであるマルコ 13:14 以降をお開きください。

I・反キリスト が王座に就く！ (14-23 節)

では、早速、聖書のみことばが、「患難時代の後半に起こる！」と教えてくれていることを学んでいきましょう。その最初は、「反キリストが王座に就く！」ということであり、どうぞ、今日のみことばの内、14-23 節に注目してください。そこには、このように記されています。

- 14 『荒らす憎むべきもの』が、自分の立つてはならない所に見たならば(読者はよく読み取るように。)ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。
- 15 屋上にいる者は降りてはいけません。家から何かを取り出そうとして中に入っははいけません。
- 16 畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。
- 17 だがその日、哀れなのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。
- 18 ただ、このことが冬に起こらないように祈りなさい。
- 19 その日は、神が天地を創造された初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような苦難の日だからです。
- 20 そして、もし主がその日数を少なくしてくださらないなら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、主は、ご自分で選んだ選びの民のために、その日数を少なくしてくださったのです。
- 21 そのとき、あなたがたに、『そら、キリストがここにいる』とか、『ほら、あそこにいる』とか言う者があっても、信じてはいけません。
- 22 にせキリスト、にせ預言者たちが現れて、できれば選民を惑わそうとして、しるしや不思議なことをして見せます。
- 23 だから、気をつけていなさい。わたしは、何もかも前もって話しました。

● ダニエル書 の預言！

先週の学びで、私たちは、あのイエス様が、「世の終わりになると、私こそがメシヤだ！キリストだ！な

どというような、“偽キリスト”がたくさん現われてくる！」ということをお示しくださいと学びました。ちょうど、マルコ 13:6 のみことばがそうです。しかし、患難時代の後半になると、そういった偽キリストの中のある者が、王座に就く…、つまり、王として君臨する！という預言が、はるか昔に、なされているのです…。

どうぞ、そういったことを確認するため、旧約聖書のダニエル書 9:24-27 をお開きください。そこには、こう記されています。『24 あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。それは、そむきをやめさせ、罪を終わらせ、咎を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言とを確証し、至聖所に油をそそぐためである。25 それゆえ、知れ。悟れ。引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから、油そそがれた者、君主の来るまでが七週。また六十二週の間、その苦しみの時代に再び広場とほりが建て直される。26 その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。』

⇒今読んだ部分は、あの有名な「ダニエルの 70 週預言」とも言われている聖書の預言です。どうぞ、特に、今読んだ部分の後半部分に注目してください。まず、ここで、『一週』と訳されている言葉は、数字の「7」を表わす、ヘブル語の言葉が使われています。そこで、日本語訳では、適当な言葉が見付からなかったため、『週』と訳されているのですが…、確かに、この単位を、「1日」と解釈すれば1週間となりますが、もしこれを「1年」と解釈すれば7年と考えることができます。そして、福音派の多くの教会では、「この1週=7年」という風に解釈しています。

その最後 27 節をご覧ください。ここで、ある人物が、『一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。…』ということが預言されています。ここで言われている人物とは、恐らく、「反キリスト」、つまり、イエス・キリストとは全く正反対の存在で…、そのキリストの働きを邪魔するような者であると考えられています。この人物は患難時代において活躍し、やがて多くの注目を浴びるようになり…、そして、かつて、イスラエルの国が行っていたようないけにえや捧げ物を認めるようになります。エルサレムの神殿はもう1度再建され、かつてのような礼拝も、恐らく行なわれます。…しかし、『半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。…』と書かれてありますように、この人物は、患難時代に入って3年半が経った頃、それをやめさせる！という預言がなされているわけです。

その 27 節の続きに、『荒らす忌むべき者が翼に現れる。…』という預言がなされています。ここで、『翼に』と訳されているところ、欄外の注釈を見てみると、「神殿に」と説明されています。つまり、神殿に、何か邪悪な者が現われるということのほずです。恐らく、ここで、『荒らす忌むべき者…』と言われているのは、反キリストのことです。どうぞ、皆さん、ここダニエル 9:27 の欄外に書かれてある注釈をご覧ください。かなり細かい文字ですが…、そこに、「マルコ 13:14」と記されているのが見えますでしょうか？これは、ここに関連のある内容が、今日のみことばであるマルコ 13:14 にも記されている、ということです。

⇒今日のみことばであるマルコ 13:14 には、こうあります…。彼は、『自分の立つてはならない所に立つ(つ)』って…。実は、ここのみことばの平行記事であるマタイ 24:15 には、こうあります、『それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば…』って…。つまり、この時、その反キリストなる人物は、本来、自分が立つてはならない…、聖なる所に立つのです！つまり、これは聖所とか、至聖所のことを言っていると思われる。彼は、自分自身を神であると宣言して、「私をあがめよ！」というようなことを宣言するのです。…スゴイでしょ？

● 荒らす忌むべき者の活躍！？

実は、そういったことが、黙示録 13 章にも預言されてあります。黙示録 13:1-5、『1 また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。これには十本の角と七つの頭とがあった。その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。2 私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口は獅子の口のようにであった。童はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。3 その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、4 そして、童を拝んだ。獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拝んで、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう」と言った。5 この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。』

⇒ここで記されてあることは、神が使徒ヨハネに見せてくださった幻であります。恐らく、使徒ヨハネは、神が見せてくださった幻が、具体的に何を指しているのか、はっきりと理解できていなかったでしょう。ですから、今の時代の私たちからすると、この部分は、ヨハネ以上に、チンプンカンプンになって当然と言えるかも知れません。でも、そんな私たちであっても、幾らか分かることはあります。恐らく、ここで言われている『獣』というのは、大変な影響力を持った支配者であります。この『獣』には、『十本の角と七つの頭とがあった…』とか、『その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった…』というような表現から、恐らく、この人物は、現代における何かの連合国のトップに居るような存在であると考えられます。

そして、どうぞ、3 節をご覧ください…。恐らく、この人物は、何かの事件で殺されそうになりますが、その致命傷とも思われた傷が、奇蹟のように直ってしまいます。そういった奇蹟に感銘したのか、多くの人たちは、この人物にカリスマ性を感じて…、益々、この者は多くの人たちの支持を得て、権威を得るようになっていきます。そういった中で、多くの人たちが、この人物のことを拝むようになるのでしょう…。そして、多くの者が、こう言うのです、「一体、誰がこの方と比べられるか？一体、誰が、この人物と戦って勝つことができるか？」って…。そして、この人物は、真の神様をも汚すようになり、42 か月もの間…、つまり、3 年半に渡って、反キリストとして活躍すると言うのです。ま、こういったようなことが、旧約のダニエル書や黙示録に預言されてあるのです。

どうぞ、皆さん、今度は、II テサロニケ 2:3-4 をご覧ください。『3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。』⇒ここでも、同じような、反キリストに関する預言がなされてあります。…このように、聖書のみことばには、至るところで、反キリストに関する預言があります。このように、反キリストの活躍を、現代の私たちが止めることはできません。…と言うのは、もう既に、これらのことは神様の最善なるみこころの内に定められているからです。

今日のみことばの 14 節後半以降で、『…ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。屋上にいる者は降りてはいけません。家から何かを取り出すようにして中に入らないでください。…』と警告されてあるのは、この患難時代に活躍するのが、ユダヤ人たちだからです。実は、先程見たダニエルの 70 週預言ですが、あそこの預言は、69 週目が終わったところ…、つまり、「油注がれた者が絶たれた」ところ…、つまり、イエス様の十字架のところで、一旦、止まっています。実は、その 69 週目の終わり、70 週目との間に、今の「教会の時代」という時代が、言わば、69 週目と 70 週目との間に“挿入”されている！というのが、私たち福音派の考えです。

ですから、空中再臨が起こって、教会が天へ挙げられてから、あのダニエルが預言した、最後の 70 週目が始まるのです。「それが冬に起こらないよう祈りなさい！」とありましたが、ユダヤでは、冬になると雨季になって、夏の間は干上がっていた川に水が流れて、逃げにくくなってしまいうからです。

● メシアニック・ジュー の活躍！

このように、私たち教会が…、つまり、教会の時代に救われたクリスチャンたち全員が、空中再臨の時、天に挙げられて…、そこから、ダニエルが預言した、あの 70 週目が始まります。言わば、その 7 年間というのは、ある意味、残された旧約の 7 年間…、ユダヤ人たちが中心になって活躍する時代なのです。

今日のみことばの 20 節に、『そして、もし主がその日数を少なくしてくださらないなら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、主は、ご自分で選んだ選びの民のために、その日数を少なくしてくださったのです。』とありますが、…例えば、その昔、あの預言者エゼキヤが預言したバビロン捕囚の期間は何年でした？…70 年でした。どうぞ、詳しくは、エゼキヤ書 25 章とか、29 章を読んでみてください。…あるいはまた、あのイスラエルがエジプトで奴隷として苦しめられていたのは、おおよそ、何年間でした？…400 年だったでしょ？

それらと比べたら、患難時代の 7 年間というのは、本当に短いと言えます。しかも、その前半は割と平穏だと思われるので、大変なのは、後半の 3 年半です。…しかし、その 3 年半が短いと言っても、その 3 年半の間には、大変な迫害が…、あるいは、この後見ていくな天変地異が起こります。今日のみことばの 20 節に書かれてあるように、「もしも、この期間が長くなったら、誰一人救われることが無い！」と言われるほどの大変な迫害や、全世界的な天変地異が、世界中を…、特に、ユダヤ人クリスチャンたちを襲うのです。

多分、皆さんは、「メシアニック・ジュー (Messianic Jew)」という言葉をお聞きになったことがあると思います。簡単に言いますと、「ユダヤ人でありながら、イエス様のことをキリスト…、つまり、救い主として信じたユダヤ人クリスチャン」たちのことを言うわけですが、今の時代、そのようなユダヤ人でありながら、イエス様のことを信じているクリスチャンは、あまり居りません。先日、ネットなどで簡単に調べてみたら、世界中で約 35 万人だと言われています。「35 万人…」と聞くと、多いと思われるかも知れませんが、例えば、「クリスチャンが少ない」と言われている、ここ日本だけでも、人口の 1% だとすると、クリスチャンの数は約 100 万人、それが、イエス様を信じて救われたメシアニック・ジューが、全世界でも、わずか 35 万人ほど…。しかも、あのイスラエルの国内だと、わずか数万人しか居ないと言われています。しかし、そういったメシアニック・ジューが、この患難時代には、大活躍すると思われる。…さて、今日はもう、時間の関係もあるので、次のポイントを見ていきたいと思います。

II・天変地異 が起こる！ (24-25 節)

その次に、イエス様が教えてくださったことは、全世界的な“天変地異”です。どうぞ、今日のみことばの内、24-25 節をご覧ください。そこで、イエス様は、こう教えてくださいました。

24 だが、その日には、その苦難に続いて、太陽は暗くなり、月は光を放たず、
25 星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。

● 黙示録 の預言！

天変地異に関しては、先週のみことばでも学びました。…例えば、戦争や地震、飢饉や疫病などといったものがそうです。しかし、先週も言ったように、それらは、患難時代の前半に起こる出来事で、患難時代の後半に起こる天変地異は、それらとは次元が違います。

実は、そういった詳しい預言は、黙示録に書かれてあります。…正直、私は黙示録にあまり詳しくないので、詳しい説明はできませんが、でも、有名なところで説明させていただきますと、黙示録 8-10 章を見てみますと、「7人の御使いたちがラッパを吹きならす」という預言がなされてあります。あるいは、「7人の御使いたちが鉢をぶちまける」という、黙示録 16 章の預言です。

そこを見てもみると、地上の 1/3 が焼けるとか、海の 1/3 が血となったとか、水が苦くなったので、その水のため多くの人が死んだ…、太陽の 1/3 が打たれたので、昼の 1/3 は光を失った！なんていう預言が書かれてあります。それ以外にも、例えば、黙示録 9:18 には、『これらの三つの災害、すなわち、彼らの口から出ている火と煙と硫黄とのために、人類の三分の一は殺された。』なんていう、恐ろしい預言までなされています。…皆さん、人類の 1/3 が死んでしまう天変地異って、想像つきます？(恐)

Ⅲ・イエス様の 地上再臨 ! (26-27 節)

さて、その次に教えられてありますのは、イエス様の“地上再臨”に関する預言であります。今度は、どうぞ、今日のみことばの内、26-27 節に注目してください。そこには、こうあります。

26 そのとき、人々は、人の子が偉大な力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。

27 そのとき、人の子は、御使いたちを送り、地の果てから天の果てまで、四方からその選びの民を集めます。

● 空中再臨 との違い！

さて、このみことばをご覧くださいと、I テサロニケ 4 章で教えられてある“空中再臨”との違いが分かります。…例えば、このみことばでは、「そのとき、“人々を見る”、人の子が偉大な力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを…」とありますが、このような描写は、空中再臨ではあり得ません。…と言いますのも、空中再臨の時、イエス様の姿を、世の大勢の者たちは“見ない”からです。

確かに、空中再臨の時、イエス様は、この空中にまで、私たちクリスチャンたちのことを迎えに来てくださいます。でも、その時、私たちクリスチャンは一瞬の内に、復活後のイエス様と同じ、栄光のからだに変えられて、空中でイエス様とお会いすることができます。例えば、皆さんは、「空中再臨」をテーマにした映画などをご覧になったことがあります？…その時、この地上では、一瞬の内に、世界中のクリスチャンたちが皆、姿を消してしまって、残された者たちは皆、一体何が起こったのか分からないわけでしょう？

しかし、地上再臨の場合は違います。…その時、イエス様は、地上にいる者たちが“はっきりと”目に見える形で、この地上にまで下りて来てくださいます。しかも、その時には、教会の時代に救われた私や皆さんも、イエス様と一緒に居るのです！…もしも、皆さんが本当に救われているのなら…。実は、そういったことが、ゼカリヤ書 14:4 を見ると、はっきりと、あのオリーブ山に、イエス様が降り立つのだ！ということが預言されてあります。

● その後、千年王国 が始まる！

そうして、その後に、あの“千年王国”が始まっていきます。…そのために、イエス様は、この地球上で救われている『選びの民』を集められます。そうして、神様が、イスラエルの民たちに約束された神の王国…、千年王国が始まっていくわけですね。

じゃあ、その時に集められなかった者たち…、つまり、救われていない者たちは、どうなってしまうのでしょうか？…正直言って、その時、イエス様に集められなかった者たちがどうなってしまうか、聖書のみことばは、はっきりとは教えてくれないので、私には分かりません…。

エピソード・イエス様からの 警告 ! (28-37 節)

さあ、それでは、最後に、イエス様がたくさんのことを預言してくださった後、弟子たちに語ってくださった“警告”について見ていきましょう。今日のみことばの内、28-37 節には、こう記されてあります。

28 いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかくなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかり

ます。

29 そのように、これらのことが起こるのを見たら、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。

30 まことに、あなたがたに告げます。これらのことが全部起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りませぬ。

31 この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

32 ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。

33 気をつけなさい。目をさまし、注意していなさい。その定めの時がいつだか、あなたがたは知らないからです。

34 それはちょうど、旅に立つ人が、出がけに、しもべたちにはそれぞれ仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目をさましてるように言いつけるようなものです。

35 だから、目をさましていなさい。家の主人がいつ帰って来るか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か、わからないからです。

36 主人が不意に帰って来たとき眠っているのを見られないようにいなさい。

37 わたしがあなたがたに話していることは、すべての人に言っているのです。目をさましていなさい。」

● みことば をよく学びなさい！

最後、ここで、イエス様は「イチジクの木から、例えを学びなさい！」ということをおっしゃっています。…正直、当時のイスラエルと違って、ここ現代の日本では、あまり、イチジクの木は一般的ではありません。実は、イチジクの木というものは、日本語では「無花果」、つまり、「花が無い、果実」と書きまますでしょ？しかし、実際、イチジクの花は実の中で隠れて咲いているのだそうです。

しかし、イチジクをよく知っている者たちは、枝が柔らかくなって、その花と言うか、丸くなった実がどんどん大きくなっていくことで、夏が近いことを悟るのだそうです。つい最近学んだように、イエス様は、エルサレムに入城される前、葉っぱしか実っていなかったイチジクを呪われたというのは、この花と言うか、小さな実を結んでいなかったからです。

でも、大切なのは、イチジクの成長ではありません。…大切なのは、イエス様の再臨について教えてくれている、この聖書のみことばです！そうでしょ！…だから、イエス様は、この 31 節で、「この天地は、いつか滅んでいくが、わたしの言葉…、つまり、聖書のみことばは決して滅ばない！つまり、永遠である！」ということをおっしゃったのです。

でも、果たして、皆さんは聖書のみことばを学んでおられるでしょうか？…「自分はもう救われたのだから、大丈夫！聖書を学ばなくて良い…」と思っておられません？もしも、そうなら、あなたは、イエス様の教えを理解しているとは言えません！…だって、イエス様は、この聖書を通して、救いだけでなく、世の終わりに関して、あるいは、クリスチャンとして知っておくべきことについて、たくさん教えてくださったからです。「救われたから、もう十分！もう聖書を学ばなくて良い！」なんて、どこにも書かれてありません！

だから、マタイ 28 章に記されてある「大宣教命令」でイエス様は、何と教えてくださいました？…あそこで、イエス様は、『また、わたしがあなたがたに命じておいた すべて のことを守るように、彼らを教えなさい！…』(マタイ 28:20 抜粋)ということをおっしゃったでしょ！…正直、私は信仰を持って、35 年以上経った今でも、学ばされるのがたくさんあります。確かに、神学校に通って、そこでも、たくさんのお話を学ばせていただきましたが、その後も、たくさんのお話を学ばせてもらっています。…なのに、皆さんは、「もう学ばなくて良い」のでしょうか？…「必要なことを、もう十分に学んだ」と言い得るのでしょうか？

どうぞ、今日のみことばの 32 節に注目してみてください。そこには、『ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。』⇒つまり、いつイエス様が再臨されるのか、それは、御使いどころか、子なるイエス様でさえ、ご存知ない！…ただ、天の父なる神様だけが御存知であられる！と言うのです。

皆さん、覚えておられますか？…実は、今から 20 年程前、韓国のあるキリスト教のグループが、「もう間もなく、イエス様が再臨される！」と言って、仕事も辞めて、教会に集まって祈禱会を持っているなんていうことがニュースで取り上げられたことがありました。…でも、おかしいと思いませんか？…イエス様でさえ、いつ再臨されるか？というのをご存知ない…、言わば、トップシークレット中のトップシークレットなのです！…当事者であるイエス様でさえご存知ないというのに、一体どうして、彼らが知り得たのでしょうか？…彼らは、イエス様以上の存在なのでしょうか！（怒）

聖書のみことばを学べば学ぶほど、イエス様の再臨の時期なんて分かるはずがない！というのは、明らかです。そうでしょ！…いえ、それだけじゃありません。聖書のみことばを学べば学ぶほど、もっと、たくさんの方が分かるようになっていくのです。

例えば、皆さん…。今日、私たちは、天の神様が、世の終わりに、患難時代として 7 年間…、特に、厳しい患難の時代として、その後半の 3 年半を定めておられる！ということを学びました。しかし、一体、どうして、天の神様は、私たち信仰を持って救われた者たちのことを、そういった厳しい困難や迫害から守ってくださらないのでしょうか？

…確かに、今の時代に救われた、私たちクリスチャンが患難時代を経験することはありませんが、でも、患難時代に救われるクリスチャンたちだって、たくさん居るわけでしょう？…どうして、神様は、あんな厳しい患難や天変地異から、彼らのことを守ってくださらないのでしょうか？…それは、簡単に言うと、それこそが最善なる神様の御計画だからです！

皆さん、先週に私たちが学んだことを覚えてくださっていますか？…困難や迫害があるからこそ、私たちは成長しているし…、困難や迫害が、ますます、私たちの成長を証しし…、福音のメッセージを拡げていくことができるではありませんでした？

現代、中国では、ますます、クリスチャンに対する迫害が強まっていると聞きます。でも、そんな中国では、人口の 10%…、つまり、1 億人以上のクリスチャンたちが居ると聞きます。…イスラエルだって、そうです。皆さん、知ってましたか？…1989 年、イスラエルの最高裁判所では、たくさん海外にいるユダヤ人たちが母国イスラエルに帰国する際に保護していたのに、イエス様のことを信じる、メシアニック・ジューだけは、「彼らは、正当なユダヤ人ではない」として、その保護の適用対象外としたのです。…ま、そういった背景もあって、海外には、たくさん居るはずのメシアニック・ジューが、イスラエルには、ほとんど居ないわけなのです。…しかし、聖書の預言によれば、イエス様の空中再臨以降、そのユダヤ人たちが大勢救われて…、福音のメッセージを伝えていくわけなのです…。

●『目をさましていなさい！』とは？

どうぞ、今日のみことばの 33 節以降をご覧ください。ここで、『気をつけなさい！』とか、『目をさましていなさい！』とか、『注意していなさい！』とか、たくさん命令形を使って、弟子たちに注意 & 警戒すべきことを教えてくださっています。特に、ここでイエス様が、熱を込めて語っておられるのは、『目をさましていなさい！』ということだと思われます。…と言いますのは、ここ 33-37 節で、イエス様は 4 回も、そういった「目を覚ましておくべきこと」を教えてくださいました。

じゃあ、イエス様のおっしゃられた「目を覚ましておく」とは、具体的に、どういったことなのでしょう？…それは、まず、今日のみことばである 33-37 節の文脈と言うか、そこに記されてある内容が教えてくれます。それは、「いつ、イエス様が来られても良いように備えておく！神様から託された責任を全うしていく！」ということです。実は、そういったことは、今日のみことばの平行記事であるマタイ 25 章の例えが教えてくれている内容でもあります。

皆さん、マタイ 25 章に記されてある、3 つの例え話を覚えておられますか？…まず、花婿を待つ、10 人の娘たちの話で、私たちが学んだのは、本当の意味で、再臨のための備えをしているかどうか？でした。残念ながら、10 人の内 5 人の娘たちは、花婿を迎えるための準備ができておりませんでした。彼女たち 5 人は救われていなかったというのが、イエス様の結論です。

その次に教えられてあるのは、ご主人からタラントを預かったしもべたちの話です。5 タラント、2 タラント、1 タラント…。預かったタラントの量は関係ありません。問題は、ご主人様から預かったものを感謝して、そのご主人様のために生きようとしたかどうかです。ここでも、そのご主人様のために生きようとしなかった者は救われておりませんでした。

そうして、最後の羊と山羊の例え…。あそこでは、救われた羊たちは皆、主にある兄弟たちに愛を実践したかどうかが問われています。もちろん、羊と山羊との違いは、救われているか救われていないかの違いでありました。…そうでしょ！

<励ましの言葉>

イエス様を信じたクリスチャンの皆さん…。私たちは、こういったみことばを通して、ますます、世の終わりが近づいていることを確信するはずですよ。確かに、それがいつであるかは誰も分かりません。しかし、今日は昨日より、明日は今日より、確実に、世の終わりに近づいているのです。もしも、皆さんが、イエス様を信じて、そのイエス様のみこころがなされることを一番に願っておられるなら、皆さんは、イエス様の再臨を心待ちにしておられ…。かつ、そのための備えを日々なしておられるはずですよ。…果たして、皆さんは、そのための備えができていますでしょうか？

それと、まだ、イエス様のことを信じておられない皆さん。あなたは、突然、イエス様が再臨されて、私たちクリスチャンのことを迎えて来てくださった時、大変な驚きと悲しみをもって、それを体験されるのです。…と言いますのは、あなたが、この神様からの救いの御手を拒み続けたからです。本当に、あなたはそれで後悔されませんか？…天の神様は、あなたが救われることを願って、そのために、イエス様をこの地上へ遣わして、あなたの罪の身代わりとしてくださったのです！あなたは、そんなイエス様を拒んで、本当に後悔が無いでしょうか？…どうか、今一度、後悔することのないよう、この聖書の教えが本物かどうかを吟味していただきたいと思います。…最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。